會　務

第21卷第7號　昭和10年7月

役員會

第6回役員會（昭10·6·7）

出席者：　青山會長，平井副會長，池邊，內田，小野，加藤，金森，佐藤，鈴木，野口，藤井，古川，宮長，山田の各常議員

決議並に報告事項

(1)　機械學會水量測定委員會本會選出委員に草間偉君を依囑せり。

(2)　日本動力協會參與員に本會々長を推薦ありたるに依りこれを受諾せり。

(3)　本會編輯委員に川口利雄君（堀越一三君の後任）を依囑せり。

(4)　臺灣震災調査委員會委員に次の諸君を依囑せり。

委員長　草間　偉君，委員　後藤宇太郎君，田中豐君，高橋嘉一郎君，藤井眞透君，三浦七郎君，山口昇君

特別委員長　堀田　鼎君，特別委員　松本虎太君，井手薰君，小山三郎君，小野榮作君，濱田正彥君，八田與一君，磯田謙雄君，久布白乘治君，阿部貞壽君

(5)　臺灣震災調査視察員の派遣は時期遲延したる爲中止することとす。

(6)　土木學會コンクリート調査會委員を次の通り依囑せり。

委員長　大濱戸宗治君　委員　平山復二郎君，沼田政矩君，宮本武之輔君，藤井眞透君，田中　豐君，吉田德次郎君，內田　實君，永田　年君，野坂孝忠君

(7)　映畫會を次の通り開催することとせり。

日時　昭和10年7月10日（水曜日）午後5時より

會場　帝國鐵道協會（丸ノ內3ノ4）

映畫　全キトーキー

（イ）上越南線の測量及び土工工事1卷

（ロ）利根川，エレクショントラス及ゴライヤスによる桁の架設1卷

（ハ）紀田川，操重車による桁の架設1卷

（ニ）奥津線，線路引延し工事1卷

（ホ）丹那隧道工事情況3卷

食事は1圓とす（飲物を除く）

(8)　第3回工學會大會議事報告

(9)　日本工學會評議員會議事報告

(10)　萬年會寄附の工業奬勵資金受領として昨年に引續き日本工學會セメント試驗方法調査會を推薦することとす。

(11)　賞牌及び賞贈呈內規を原案の通り決議せり。

(12)　土木學會內に東洋部設置の件は愼重審議の結果設置することに決議せり。

(13)　入退會の件

秋草清君外27名を會員に，阿部都郎君外65名を准員に，溫美正新君外20名を學生員に入會を承認し，稻垣恭一郎君外3名を准員より會員に，淺野英君外7名を學生員より准員に轉格を承認せり。

編輯委員會

第7回編輯委員會（昭10·7·1）

出席者：　藤井編輯長，岡田，鮑田，川口，永田，成瀨，野口，福田，星野の各委員

報告並に協議事項

(1)　第3回抄譯打合會の經過を報告せり。

(2)　第6回役員會に決定せる土木賞牌及び賞贈定內規を報告せり。

(3)　第21第卷6號所載論說報告に對する討議依頼先を決定せり。

(4)　第21卷第6號所載工事寫眞，論說報告，彙及び參考資料の謝禮を決定せり。

(5)　第21卷第7號に下記論文を追加せり。

討議：　端部に於て變斷面を有する長柱の安定問題（准，工，最上武雄）同上（著，會，工，樋浦大三），水道鐵管破裂の復舊作業と所要時間に就て（會，島崎孝彥），同上（著，會，工，岩崎富久），鑄鐵管の强さに就て（會，植村倉藏）

彙報：　中央電氣早川發電所工事概要

(6)　第21卷第8號登載論文を下記の通り決定せり。

論說報告：　長崎港修築工事報告（會，工，三好貞一七）

測量器の改良に關する考察（會，工，安東功），水道管に於ける水衝壓に就て（會，工，池田篤三郎），小銃彈の衝撃によるコンクリートの破壞狀況に就て（會，工博，福田武雄）

討議： 連彈性法則の平面剛矩形構解析への適用（著者へ照會中）（會，石川時信），平齊線橄江橋梁の吊川式鈑桁架設法に就て（著者へ照會中）（會，眞鍋節好），鑄鐵管に於ける流量に就て（著者に照會中）（會，島崎孝彦）

彙報： 高山線に於ける雪及落石の狀況（會，工，岡崎信雄），船橋・千葉間電化工事概要（會，工，桑原竹二）昭和10年6月北九州及び關西方面水害狀況，內務省直轄工事技術研究報告抄

特許抄錄： 10件及び登錄實用新案19件

參考資料：

應用力學： 應用力學の或種の問題の解法に就て（最上），兩側徑間の比較的小なる連續桁（奥田），

土質工學： 對數渦線の滑り面に就て（吉藤），擁壁に關する試驗（吉藤）

水理： 港灣工事用機械船の安定（本間），水理學的相似律の項を以て表はせる跳水現象（本間），泥土を含む水の流れに就て（本間），重複波の近似解（本間）跳水現象と表面渦の長さ（本間）

コンクリート及鐵筋コンクリート： 施工繼手に於けるコンクリートの付着强さ（原田），鐵筋の現場試驗法（糸川）

堰堤： 丸い堤頂を有する溢流堰に對する溢流量の新公式（山岡），Suresnes の新堰堤（吉藤）

上水道： 配水施設の管屈曲部に於ける反力（玉置），急速濾過池の水理に關する考察（松見），Evansville 市に於ける配水管の機械掃除（米屋），上水中に含まるゝ微量化學成分の光學的判定（米屋），新試驗法による嗅氣統制法（小林）

下水道： 揮發性物質に關する下水汚泥の燃料價（玉置）

道路： 動力學的に剛質版なる中級鋪裝（長瀬）

雜： 米國土木學會の論文賞に就て

土木學會振興委員會

第 3 部會第 4 回委員會（昭 10·6·28）

出席者： 野坂委員長，伊藤，太田尾，鶴岡，原田の各委員，小野寺庶務主任

協議事項

(1) 第3回に於て協議したる土木學會誌の編輯に就き檢討し第一部會誌を年6回發行すること其の他を決定せり。

(2) 土木學會役員の選擧に關する件及び編輯委員依囑等に就き協議せり。

(3) 次回の會合を7月17日と十。

第 2 部會第 4 回委員會（昭 10·7·2）

出席者： 平山委員長，井上，金子，柳本，河西，見玉，田中，高橋，德永，沼田，三浦，山口の各委員，內田，金森，藤井の各幹議員，柴原書記長，小野寺庶務主任

平山委員長より臺灣震災視察員派遣は時期延期の爲役員會に於て中止することに申合せたる旨報告し次で下記事項を決議又は協議せり。

決議事項

(1) 廣間會設置の件を第3回委員會議事の通り決議せり。

(2) 東洋部設置の件は役員會にて決議せられたり依て部長及び次長其他を選任し實行促進方を理事に希望することとせり。

協議事項

(3) 定款を改正し各種事業別に部を設け其當局者の實行事項等に就き各委員の希望意見を取入れ重ね次回7月18日引續き審議することとせり。

維新以前日本土木史編纂委員會

第 29 回委員會（昭 10·6·26）

出席者： 田邊委員長，眞田副委員長，石井，小川，澤瀉，眞島，牧，板井，池本，赤木，高柳の各委員，藤澤幹事

本月の蒐集調査狀況を終り次の事項を協議せり。

(1) 各部の原稿は大體纏りたるを以て[illegible]る爲，高柳委員に回附し校閲を進めることとせり。

(2) 豫約募集內容見本の印刷を急ぎ發送することとせり。

講演會並に映畫會

第 6, 7 回講演會並に映畫會（昭 10·6·4）

會　場　帝國鐵道協會
來會者　205 名
(1) 講　演　昭和 9 年關西風水害氣象に就て
附・映畫・極地觀測に於ける第 2 極年
中央氣象臺 技師
東京帝國大學教授　理學博士　藤原咲平君
(2) 映　畫　第 2 吉野川橋梁ケーブル・エレクション
全 3 卷
說明　鐵道省岡山建設事務所　森　親泰君
閉會後有志晩餐會を開く出席者 25 名

第 2 回映畫會（昭 10・7・10）
會　場　帝國鐵道協會
來會者　250 名
映畫番組　(1) 上越線，清水隧道三角測量檢測　全 1 卷
(2) 高山線，第 1 飛彈川橋梁揚重車による鈑桁架設工事　全 1 卷
(3) 太多線，木曾川橋梁エレクショントラス使用構桁架設工事　全 2 卷
(4) 高山線，第 2 益田川橋梁構桁ケーブルエレクション架設工事　全 1 卷
(5) 上信北線，第 2 吉野川橋梁構桁ケーブル架設工事　全 2 卷
（休　憩 30 分）
(6) 鐵道上工工事　全 1 卷
(7) 軌道工事　全 1 卷
(8) 丹部隧道工事狀況　全 3 卷

その他の記事

○昭和 10 年 6 月 6 日午後 5 時より理事會を開催し青山會長外 5 名出席次の事項に就き協議せり。

(1) 賞牌賞品內規に就き原案を作成し役員會に諮ることとす。

(2) 土木學會コンクリート調査會委員長補に委員を 12 名選定することとす。

(3) 圖書整理の爲め暫定的に平田修一，友永和夫の 2 君を囑託することとす。

(4) 土木工學用語集編纂に當らしむる爲，小野一良，石田貞一，弟川一郎の 3 君を囑託することとす。

(5) 7 月開催の映畫會日時及び映畫種類等を決定しこれを役員會に報告することとす。

(6) 振興委員會第 3 部會案土木學會誌編纂に關する件は編輯委員會に於て研究することとす。

(7) 日本動力協會參與員に本會々長を推薦ありたるに付之を受諾し役員會に報告することとす。

(8) 故古市公威男記念事業資金募集記事を會告として掲載することとす。

(9) 編輯委員堀越一三君轉任に伴ふ後任に川口利雄君を依囑し之を役員會に報告することとす。

○昭和 10 年 6 月 7 日日本學術振興會より明治以前日本土木史編纂出版補助金交附の通知ありたり。

○昭和 10 年 6 月 14 日午後 5 時より理事會を開催し青山會長外 5 名出席次の事項を協議せり。

(1) 土木學會コンクリート調査會委員を次の通り依囑することとす。（役員會記事參照）

(2) 工業品規格統一調査會より照會に係る金屬材料の機械的試驗に關する術語の意義に關しては日本工學會用語統一調査會と同一歩調を採ることとす。

(3) 振興委員會第 2 部會より提案の東洋部設置の件は役員會に諮ることとし實行方法に就き協議せり。

○昭和 10 年 6 月 24 日土木學會誌 21 卷第 6 號を發行成規の手續を了し 6 月 25 日これを全會員に配布せり。

○會員內務技師池本泰現君はアフガニスタンへ同東章藏君，若狹茂樹君はシヤムへ招聘赴任せらるゝに付昭和 10 年 6 月 27 日午後 5 時より丸の內會館に於て青山會長外 18 名出席送別の宴を催し併せて東洋部設置に伴ふ同國との連絡方を依頼せり。

○昭和 10 年 6 月 28 日映畫會の開催を東京府及び隣接縣在住會員に通知せり。

○昭和 10 年 6 月 17 日までに於て下記諸君を入會並に轉格の手續きを了し名簿に登錄せり。

入會の部

會員

氏名	勤務先
秋草　清君	滋賀縣土木課
内海源吾君	青森縣黒石土木出張所
小倉圭三君	鹿兒島北建設事務所
岡部義雄君	奈良縣三輪土木出張所
加藤　宏君	宮城縣耕地課
加納豐彦君	東京市水道局
梶山勇一君	全羅北道土木課
川端下忠文君	青森縣黒石土木出張所
小島主稅君	臺灣交通局鐵道部
兒玉二三君	奈良縣高田土木出張所
佐伯政治君	内務省神戸土木出張所
志田源士君	鐵道省敦賀建設事務所
柴田正雄君	香川國道改良事務所
早田成雄君	都市計畫福井地方委員會
高木外司君	滋賀縣土木課
高瀨三善君	全羅北道土木課
竹浪長七君	青森縣弘前土木出張所
内藤十郎君	濱野同族會社
中井兼吉君	島根縣濱瀨土木管理事務所
中井龜太郎君	遞信省電氣局水力課
中澤德次郎君	滋賀縣土木課
延木貞治君	島根縣高津川改修事務所
樋口兼英君	大鐵神戸保線區
船田富三君	島根縣安來港修築事務所
星　德男君	臺灣交通局鐵道部
村田　鶴君	滋賀縣土木課
村山勝治君	青森縣鰺澤川改修事務所
石川津郎君	内務省淀川改修事務所

准員

氏名	勤務先
阿部郁郎君	大阪府土木部河川課
有利恒一君	兵庫縣工業學校
浦川末光君	臺灣交通局臺北保線區
江口正虎君	北海道帶廣土木事務所
遠藤　巖君	京城府間組支店
大槻利夫君	北海道帶廣土木事務所
岡田正明君	大阪市港灣部
岡町信太君	大鐵京都保線區
香川文夫君	愛媛縣立工業學校
加藤一郎君	大井川電力會社
川崎忠正君	東京府廳土木課
木口利雄君	内務省淀川改修事務所
木村成博君	北海道帶廣土木事務所
龜甲谷貞三君	内務省兵庫國道改良事務所
北村三夫君	株式會社間組
工藤友喜君	全羅北道土木課
久保田美德君	神奈川縣多摩川架橋事務所
小宮秀信君	滿洲國江省公署民政廳
佐藤直一君	北海道土木部土地改良課
酒井定次郎君	滋賀縣土木課
下田子之助君	内務省土木局第二技術課
進藤正義君	仙鐵工務課改良掛
石井郁夫君	京城鐵路局工務處工務課
石川廣喜君	遞信省電氣局水力課
杉山豐吉君	阪神電鐵會社工務課
鈴木　隆君	鐵道省工務局改良課
清　晉彦君	大井川電力會社
清野隆太郎君	大阪市土木部道路課
田上恒好君	朝鮮内務局鎮南浦土木出張所
太郎浦　强君	滿洲國道局チチハル建設處
高橋　勇君	臺灣交通局彰化保線區
瀧澤廣吉君	滋賀縣八幡工區事務所
千葉小次郎君	北海道帶廣土木事務所
土屋　隆君	臺灣交通局新竹保線區
寺田英一君	内務省土木局第二技術課
寺田巳之助君	大鐵大阪保線區
中安米藏君	廣島縣土木部道路課
中山武士君	北海道帶廣土木事務所
永井　稔君	内務省兵庫國道改良事務所
永井良男君	北海道帶廣土木事務所
永岡義次君	神奈川縣多摩川架橋事務所
永田　豫君	内務省九州改修事務所
長澤顯一郎君	北海道帶廣土木事務所
樫崎四郎君	兵庫縣土木部
石川祐三郎君	福島保線事務所
梅澤　仁君	青森縣鰺澤川改修事務所
橋本匠雄君	朝鮮鐵道局建設課
板東逸郎君	内務省兵庫國道改良事務所
平井信弘君	鹿兒島北建設事務所
藤村善雄君	仙鐵工務課保線掛
古田一三六君	遞信省電氣局水力課
前田又久君	鹿兒島北建設事務所
三好雄次郎君	下關港修築事務所
水島隆一君	滿洲國道局龍江建設事務所
室田玉治君	日本無線電信會社
森　富男君	滿洲國道局第二技術處
八木峰二君	大阪市土木部道路課東部出張所
大和大武君	滿洲國道局チチハル建設處
山口武治君	北海道廳土木部
山本谷吉君	東京府第二道路改修事務所
横山要太郎君	樺太鐵道事務所
吉永　齊君	北海道土木部土地改良課
和田正志君	大連神谷組
渡邊恒三郎君	滋賀縣土木課
片野英二君	内務省筑後川改修事務所
佐々木春樹君	京都府山土木出張所

學生員

溫美正秋君	日本大學工學部	石橋治喜君	仙臺高工	中西敏博君	東京帝大工學部
伊丹立夫君	東京帝大 〃	立花文勝君	北海道帝大工學部	西澤　治君	〃　〃
板垣正男君	北海道帝大工學部	谷垣精一君	東京帝大 〃	文屋　清君	早稻田高工
市川嘉瑞君	日本大學工學部	鶴飼川原　政雄君	〃　〃	松田久德君	名古屋 〃
篠崎偉一君	東京帝大 〃	中川邦治君	早稻田高工	三井正雄君	東京帝大工學部
杉木隆二君	日本大學 〃	細川和男君	東京帝大工學部	水越達雄君	〃　〃
瀨尾一久君	東京帝大 〃	中岡二郎君	〃　〃	山中國男君	名古屋高工

轉格の部

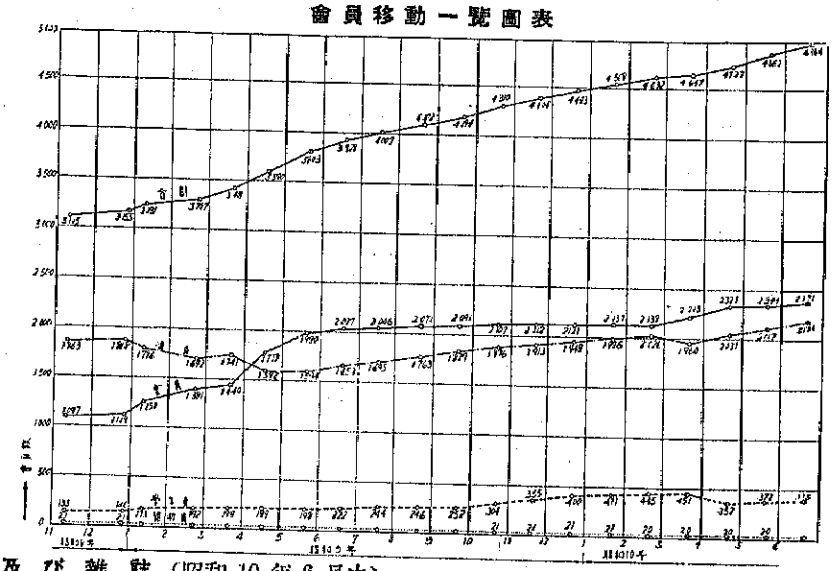
會員

稻垣恭一郎君　柴田悦太郎君　林　長太郎君　吉岡榮夫君

准員

淺野　英君　落合久四郎君　玉手文吾君　山木將雄君
荒井　茂君　鈴木鬼芳君　羽中田參次君　吉村　正君

會員移動一覽圖表



○圖書及び雜誌（昭和10年6月中）

交換

建築雜誌	第49輯 第599號	建築學會	機械學會誌	第38卷 第218號	機械學會
鐵と鋼	第21年 第5號	日本鐵鋼協會	帝國鐵道協會會報	第35卷第21號～第36卷第6號	帝國鐵道協會
水道協會雜誌	第25號 昭和10年6月	水道協會	業務研究資料	第23卷第16-17號	鐵道大臣官房研究所
港灣	第13卷 第6號	港灣協會	工政	第182號 昭和10年6月	工政會
造船協會	第158號 昭和10年5月	造船協會	電氣學會雜誌	第55卷 第6册 第563號	電氣學會
都市問題	第20卷 第6號	東京市政調査會	衛生工業協會誌	第9卷 第5號	衛生工業協會
道路の改良	第17卷 第6號	道路改良會	動力	第36號 昭和10年6月	日本動力協會
建築と社會	第18輯 第6號	日本建築協會	日本建築士	第16卷 第6號	日本建築士會
Proceedings	VOL. 61, No. 5	American Society of Civil Engineer's.	建築雜誌	第49輯 第600號	建築學會
工人	第156號 5月號	日本技術協會	日本鑛業會誌	第51卷 第602號	日本鑛業會

寄贈

G. S. News	VOL. 9 No. 5	日本電池株式會社
工學院同窓會誌	第37卷 第6號	工學院同窓會
土木建築雜誌	第14卷 第6號	シビル社
日本精神の眞義と歸趨	第57回講演集	啓明會
モネル・メタルとニツケルの鑄造及機械仕上		日本ニツケル時報局
鹿兒島港修築工事誌		内務省下關土木出張所
都市計畫東京地方委員會常務委員議事速記錄	第5號	
都市計畫東京地方委員會議事速記錄 第6號		都市計畫東京地方委員會
國立公園	第7卷 第6號	國立公園協會
日本工學輯報(抄錄)	昭和10年 第12・13卷	學術研究會
冬のコンクリート(建築工學海外名著集)		コロナ社
工學	No. 250, JUNE, 1395	東京工學社
ローマ字世界	第25卷 第6號	日本のローマ字社
窯業品の化學製造及試驗法		永井彰一郎
工事畫報	第11卷 第6號	工事畫報社
工學彙報	第10卷 第1號	九州帝國大學工學部
滿洲電氣協會々報	第30號 昭和10年5月	滿洲電氣協會
鑄物	第7卷 第6號	日本鑄物協會
土木試驗所報告	第30號 昭和10年 第1册	内務省土木試驗所
潛函工法		白石基礎工業合資會社
Excavating	Vol. 29, No. 5. May 1935.	三井物産株式會社機械部
セメント界彙報	第327號 6月號	日本ポルトランドセメント同業會編纂
セメントコンクリート道路	No. 31	日本ポルトランドセメント同業會道路部
地震研究所彙報別册	第2號 昭和10年5月	東京帝國大學地震研究所
都市美	第12號 昭和10年6月	都市美協會
工業現勢	第4卷 第6號	東京工業大學工業調査部
沖電氣時報	第2卷 第3號	沖電氣株式會社
會務彙報	第43號 昭和10年6月	日本土木建築請負業聯合會
エンヂニアー	第14卷 5月號	都市工學社
帝國學士院紀事	第11卷 第5號	帝國學士院
基礎工	第6卷	コロナ社
都市武裝		日本建築協會
三菱電機	第11卷 第3號	三菱電氣株式會社
床版の計算		コロナ社
日立評論	第18卷 第6號	日立評論社
鐵道技術	第9卷 第7號	鐵道技術社
再び東京市及其附近の地下に發見されたる逆斷層に就て		西尾鉦次郎
セメント工業	昭和10年7月號	セメント工業社
東京土木建築業組合報	第8卷 第6號	東京土木建築業組合

購入

Engineering News-Records Vol. 114, No. 20～21 May 1935.

Der Bauingenieur Mai～Juni 1935.

Die Bautechnik Mai 1935 Heft 22～23.

Beton und Eisen Mai 1935 Heft 10.

准員 下高原德治君, 同 高橋喜佐君, 同 佐久木寛治君の訃報に接す, 本會は恭しく哀悼の意を表す。

會　報

第21卷第7號　昭和10年7月

シヤム及アフガニスタンへ招聘された東，稻垣，池本 3 君の送別會記事

去る4月より本會に振興委員會を置き鋭意研究協議を續けて我土木學會の隆盛を計つてゐるのであるがその內第2部會に於て"土木學會內に東洋部を設置して東洋諸國と技術的提携を計ること"(第21卷第6號會務欄參照)が決議せられて之を第6回役員會に提案し可決せられた(會務欄參照)。

かくして我土木學會が文化的建設の使徒として日本國內のみに止まらず東洋永遠の平和，繁榮の爲に雄飛すべき第1段の工作が成つたのである。

丁度この時シヤム及アフガニスタンに招聘せられた東，稻垣，池本の3君が遠い彼の地に赴任せられて我國の國威を技術的に發揚せらるゝ事になつたので我土木學會は東洋部設置の趣旨とその前奏曲として3君の行を壯にすると同時に本會の爲に御盡力を願ふ事になり6月27日丸ノ內會館に於て送別會を催した。

來會者は會長，副會長，常議員の諸君で先づ青山會長より次の如き挨拶があつた。

青山會長の挨拶

この度東，稻垣の兩君はシヤムへ，池本君はアフガニスタンへ各招聘せられましてあちらへ御出になる事になりました。これに就て土木學會は會員の皆樣が母國を離れて遠い彼の國に御出になり，土木技術によつて各の有せらるゝ才能を其の國に紹介し我國の國威を技術の上に於て發揚せらるゝ事は慶賀に堪えない次第であります。土木學會は3君の行を盛にする爲に茲に御粗末ながら心からなる小宴を開きました所御多忙の際にも拘らず御臨席下さいました事を厚く御禮申上ます。

吾々は何の御餞別も持ちません。卽ち吾々は金を持つて居りません。尤も個人としては御金持が澤山居らつしやいましようが學會としては貧乏なのでありますから只言葉を以つて御餞別に代へ度いと存じます。

昔イスラエル民族がモーゼに率ひられてエヂプトを逃れ其民族の神エホバが彼等に與へんと約束せし乳と蜜との流るゝ國へ行かんとして40年間荒野の中に多くの苦難と戰つてさまよつて居りましたがモーゼは此約束の國を遠くより望んだ丈で其處に入ることが出來ずして途に死んでしまいました，其所でエホバはヨシユアを選びモーゼに代つて此民族を率ゆることを命じまして次のやうなことを申されました"‥‥汝が生なる日の間なんぢに當る事を得る人なかるべし我モーゼと偕に在りし如く汝と偕にあらん我なんぢを離れず汝を棄じ。心を强くしかつ勇め汝はこの民をして我が之に與ふることをその先祖等に誓ひたりし地を獲しむべき者なり。惟心を强くし勇み勵んで我僕モーゼが汝に命ぜし律法をことごとく守りて行へ之を離れて右にも左にも曲るなかれ然れば汝いづくに往きても利を得べし‥‥心を强くしかつ勇め汝の凡て往く處にて汝の神エホバ偕に在せば懼るゝなかれ戰慄なかれ"」

我々はイスラエル民族とは異り萬世一系の天皇の下に生を享けた日本人であるから日本と云ふ國の後押によつて生活し又これに誇りを感じて居るのであります。吾々はこの樣な國の國民でありますから此の國の後押の心强さによつて皆樣も勇んで彼の國に行く事が出來ると思ひます。少くとも土木學會は皆樣の幸福と健康とを祈願して止まない次第であります。

私は他の人から見れば無謀にも45 milesの鐵道を敷設するに其所に使用せられたる枕木の數丈け從業員が死んだとうわさされたるパナマ地峽へ明治35年頃に渡航と云ふ方の同地方を視察旅行せられた記事を東京經濟雜誌(?)にて讀んだ丈の知識のみで，先方で雇つてくれるのか，どう云ふ仕事が與へらるゝのか，又は何程の報酬に有り付くのか皆目分らずに只神樣が必要とするならば其の間は私は何處へ行くも無事に其の命ぜられたる仕事をなし果ぐることが出來ることを信じてパナマ運河開鑿工事に從事すると云ふ希望を以つて出て行きました。私は耶蘇敎を信じて居た事と信仰の篤い人で私を敎へ導ひて下さつた人のすゝめもあり又同信の親友が"心を强くしかつ勇め汝の凡て往く處にて汝の神エホバ偕に在せば懼るゝなかれ戰慄なかれ"と云ふ言葉によつて送つてくれました。其の上私も亦日本人でありますから勿論前に申上げました樣な心持で行つたのであります。

皆樣も我國の後押と國民性とを以つて充分に土木學會

術に依つて我國威を發揚して下さいます樣著し又時利あらずして土木技術に依つて我國威を發揚する機會がなかつたとしても日本人は斯の如き人格の持主であると云ふことを彼等の心に銘せさせる事は出來ると思ひますから。この心持を以つて勇んで御出でになる事を御願致します。これは私のみならず皆が希望して居る事と信ずるのであります。

此度我土木學會では東洋部を設けましたがその資金が少い爲，思ふ樣には參りませんが，東洋諸國卽ちシヤム，アフガニスタン，支那，滿洲等と土木技術者間の了解及び互々の援助を以つて政治外交工作と並んで我邦建國の精神に從ひ國際間の和平親善を計つて行かうと思つて居るのであります。でありますから3君はこの技術的の才能と手腕とを御持ちになつて居らるゝのでありますから技術的の聯絡と提携に御努めあらんことを切望し致します。

皆樣の御健康と御幸福を祈念して玆に干杯致し度いと存じます。（干杯拍手）

次で東森藏君起ち次の如く謝辭を述べられた。

一言御禮の言葉を申上げます。

この度私共3人は計らずも2外國からの招聘の推薦に預りまして身に餘る光榮と存じますし又赴任するに當り色々と御盡力下さいました事を厚く御禮申上ます。

又今夕は皆樣の御招宴に預りまして唯今は私共に有益な御言葉を賜はり感謝に堪えない次第であります。

今迄外國には度々御出でになつた人々の事を伺つて居りますが私共2人が參りますシヤムは昔山田長政が我國威を大いに發揚せられた所であるので私達もその幾分なりとも出來るだけ盡して見たいと存じます。その點で我國及皆樣の御援助を切望します。

シヤムは最近親日の氣運が濃厚の樣であります。而し未だ行つて見ないと判りませんが他の外國が相當根强い勢力を持つてゐる樣でありますし其の上英國からは顧問技師等が約80名，フランスから30名位など相當の根據を持つて居りますから私共が參りますに就てはこれ等に大なる關心を持たれてゐる事と存じます。從つて私共も出來る丈奮闘して彼等の壓迫に對抗して唯今の御言葉に報ゆる樣に心掛けてゐるのであります。

又私達が技術的良心によつて或事を主張した場合にその根據並に結果が或國に不利で我國に有利である樣な場合には吾々に壓迫を加へるでせうし又國際的になる事もあるだらうと存じます。この場合に吾々の覺悟として其の國と我國との東洋に於ける地位を考へそして東洋の盟主たる日本が充分に押へ得ると以て，理のある所は大いに主張したいと思ひて見ないと判りませんがその覺悟を以つて存じます。

土木學會に東洋部を設けられたのであり の御指導を御願ひすると同時に吾々もこの るだけ御援助を惜まない次第でありますか く御願申上ます。

本會は3君の壯途を祝福すると同時に御て已まない次第である。

尙3君は7月6日壯途に上られたのであ

第2回映畫會

第2回映畫會を昭和10年7月10日 り鐵道協會で開いた。蒸し暑い夜であつ に250名を超え非常な盛會であつた。

その映畫の內容は大體次の樣である。

1. **上越線淸水トンネル三角測量檢測** 全

上越線淸水トンネル開鑿工事中，兩口よ トンネルの方向や長さの狂を防ぐ爲に行 量の狀況を紹介したものである。

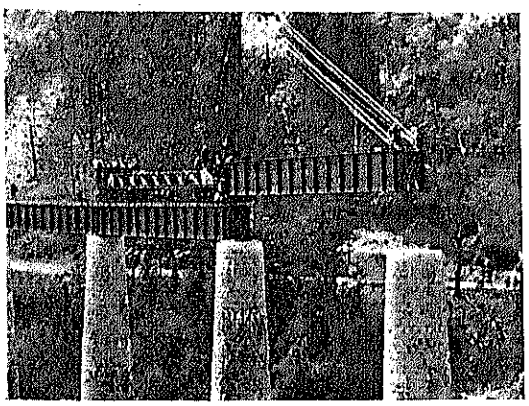
2. **鐵道橋梁架設工事 第1編** 全1卷

高山線第1飛彈川橋梁操重車による鈑桁

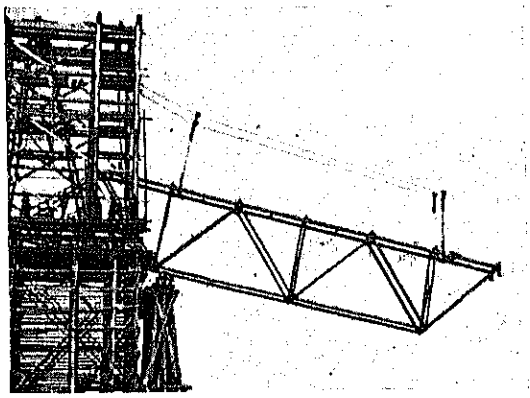
徑　　間：	70呎9連，50呎4連
設計活荷重：	E−33
架設方式：	操重車による架設法
操重車重量：	63 ton
施行年月：	昭和2年4月

(1) 測量隊員の天幕生活

(2) 操重車による鈑桁架設



(3) エレクシヨントラス架設



3. 鐵道橋梁架設工事 第2編 全2卷 433 m
太多線木曾川橋梁エレクシヨントラス使用構桁架設工事

構　　桁：單線曲弦ワーレン型下路
徑　　間：200 呎 2 連
設計活荷重：E—33
構桁重量：1 連當り 165 ton
架設方式：エレクシヨントラスを用ふる架設法
エレクシヨントラス重量：86 ton (150 呎用)
100 ton (200 呎用)
施行年月：昭和2年2月～6月

4. 鐵道橋梁架設工事 第3編 全1卷 297 m
高山線第2益田川構桁 (ケーブルエレクシヨン) 架設工事

構　　桁：單線プラット型下路
徑　　間：150 呎
設計活荷重：E—33
構桁重量：107 ton
架設方式：吊り出し式ケーブル架設法
施行年月：昭和4年1月

5. 鐵道橋梁架設工事 第4編 全2卷 356 m
土讃北線第2吉野川橋梁構桁ケーブル架設工事

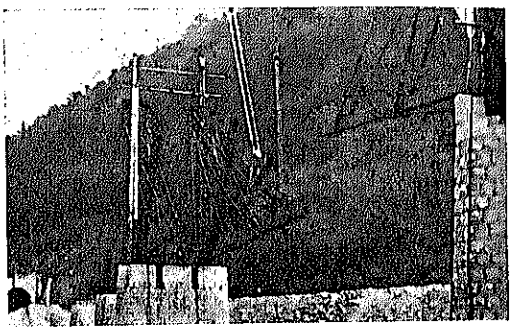
構　　桁：單線曲弦ワーレン型下路
支　　間：77.5 m (徑間約 250 尺)
設計活荷重：KS—15
構桁總重量：233 ton
架設方式：吊り下げ式ケーブル架設法
施行年月：昭和10年5月

6. 鐵道土工工事 全1卷 228 m

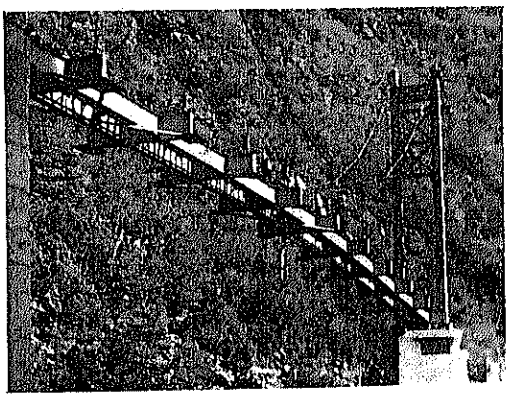
鐵道線路の路面を作るためには種々の土工工事がありますが此處に其の二三を紹介したものである。

(1) 岩石地層の切開き爆破狀況
(2) スチームショベル掘鑿作業
(3) 岩石の切取破爆狀況

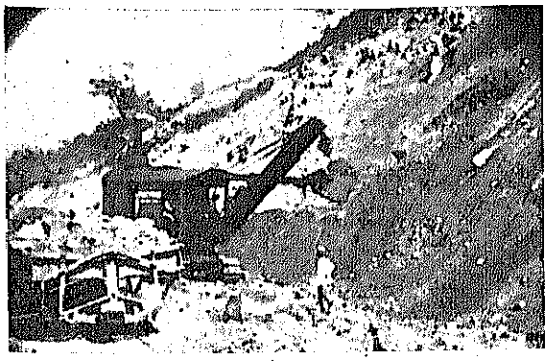
(4) 吊り出し式ケーブルエレクシヨン



(5) 吊り下げ式ケーブルエレクシヨン



（6） スチームショベル掘鑿作業



(4) 盛土切取の法面防護(石，コンクリートを張るか石を積み上げる)

7. **軌道工事** 全1卷 159 m

土工其の他の工事で路盤が出来ると軌條の敷設をするがこの狀況を紹介したものである。

8. **丹那隧道工事狀況** 全3卷

隧道延長： 7 804 m

工 事 費： 24 628 524 圓(1 m 當 3 156 圓)

着　　手： 大正7年4月

竣　　工： 昭和9年3月

（7） 軌 道 敷 設

災　害　寫　眞

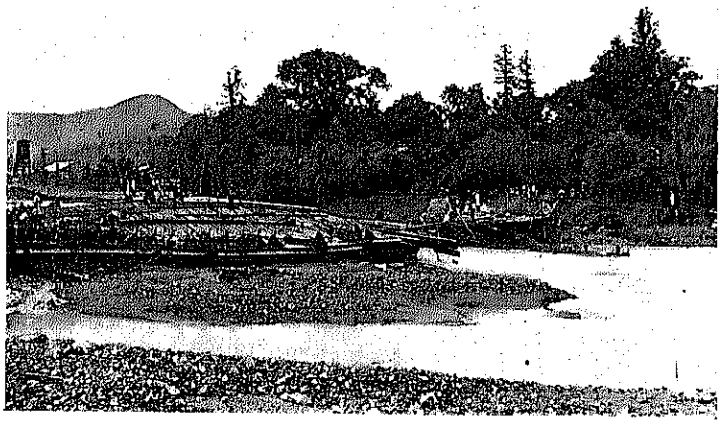
1. 京阪地方水害狀況
2. 北九州水害狀況
3. 靜岡地方震害狀況

京阪地方水害狀況

京都府に於ける最大降雨量：6月29日　269.9mm（京都測候所觀測）
〃　　最大出水位：6月29日午後1時　5.20m（桂川羽束師橋量水標）

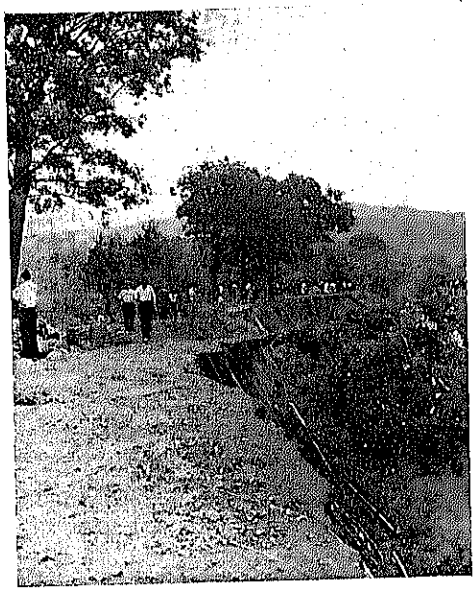
(1)　高野川左岸平八茶屋附近護岸の決潰

(2)　鴨川新御園橋の損壞

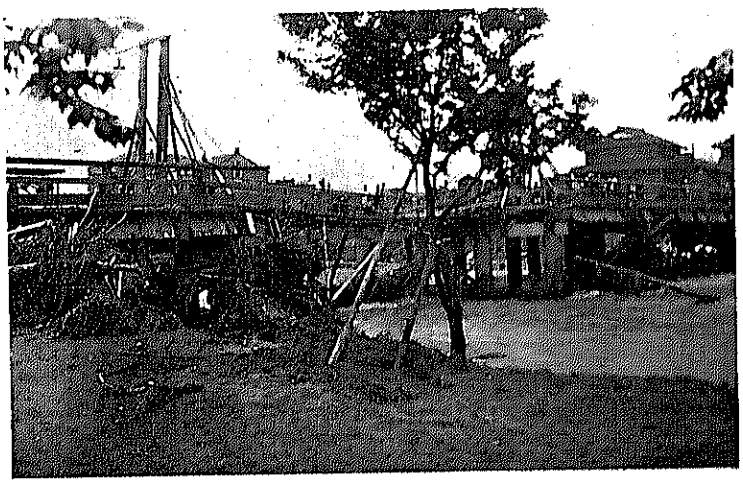


(3)　鴨川御蔭橋附近左岸道路及洪水敷決潰
（家屋の前面約4mの道路流失）

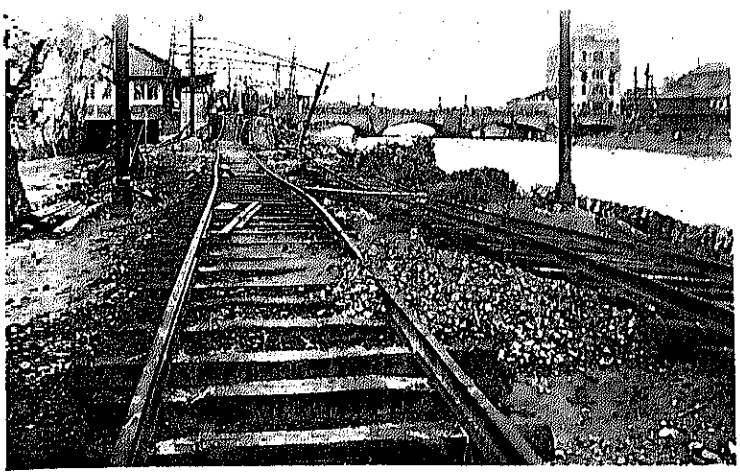
(4)　七條大橋西詰下二ノ宮町浸水狀況



（5） 鴨川右岸堤防御園橋下流約 300m
附近賀茂街道の決潰



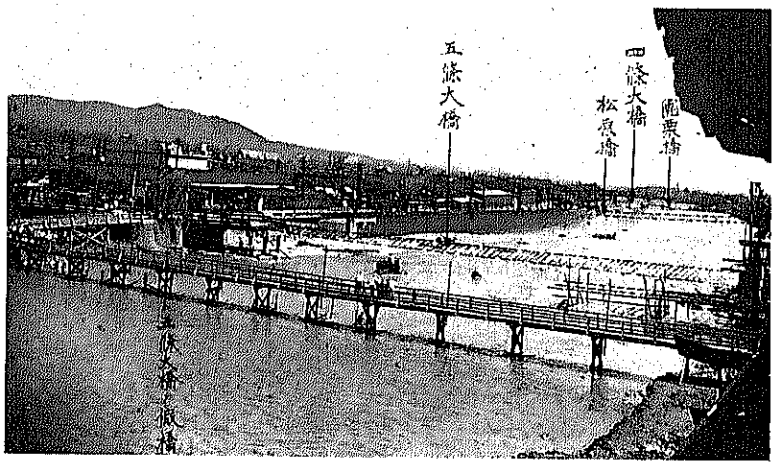
（6） 鴨川三條大橋の損壊
中央決壊箇所に見えるは
假橋



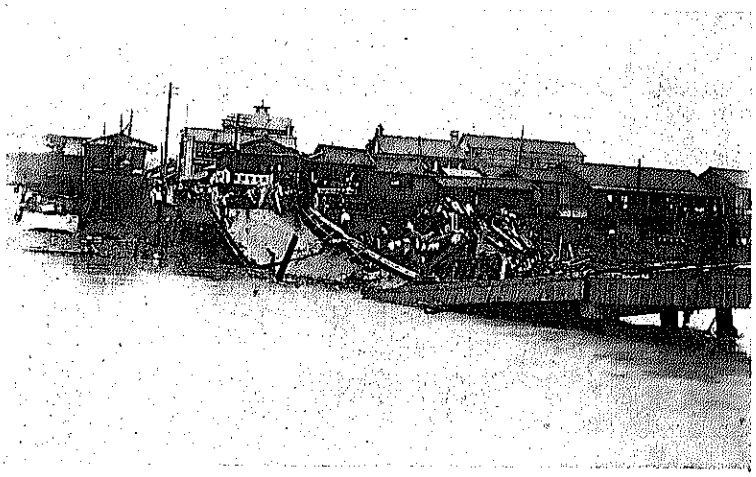
（7） 鴨川右岸四條大橋附近
京阪電車線路の被害

(8) 鴨川橋梁損壊狀況

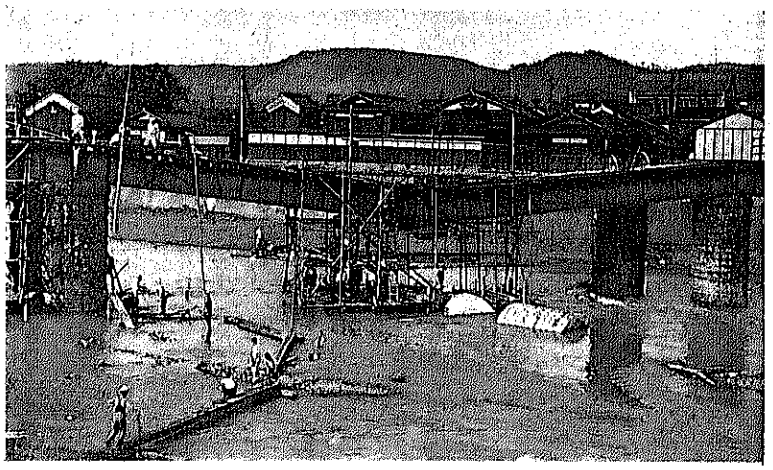
五條大橋附近より望む（假橋架設後撮影）



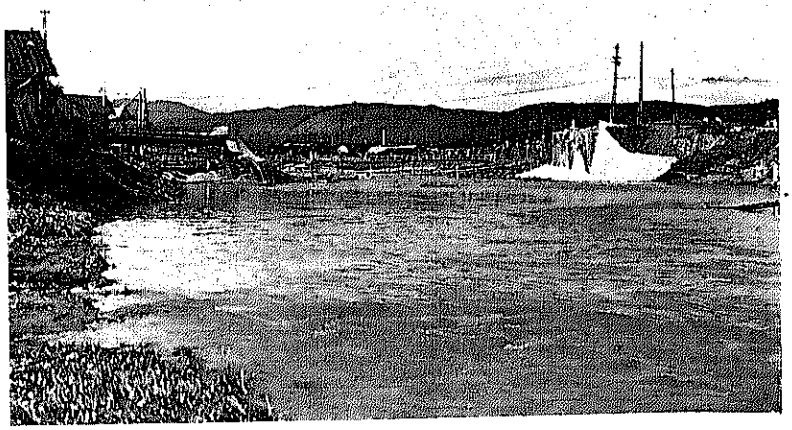
(9) 鴨川正面橋の損壊



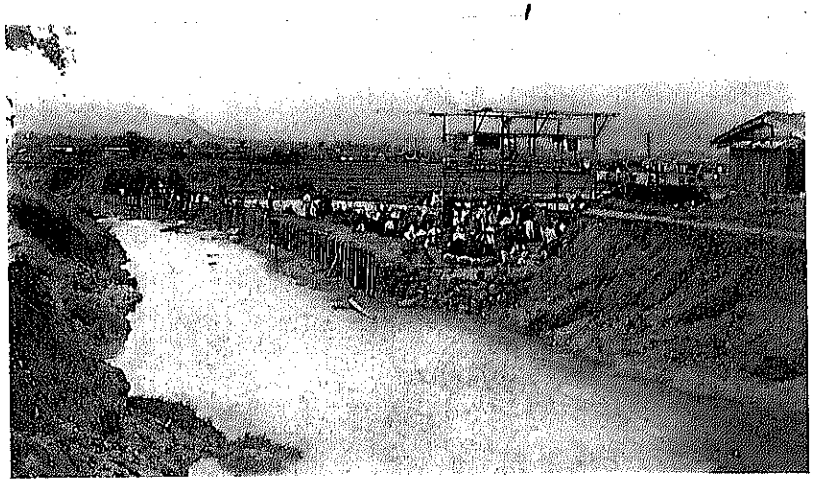
(10) 省線奈良線橋梁橋脚の倒壊



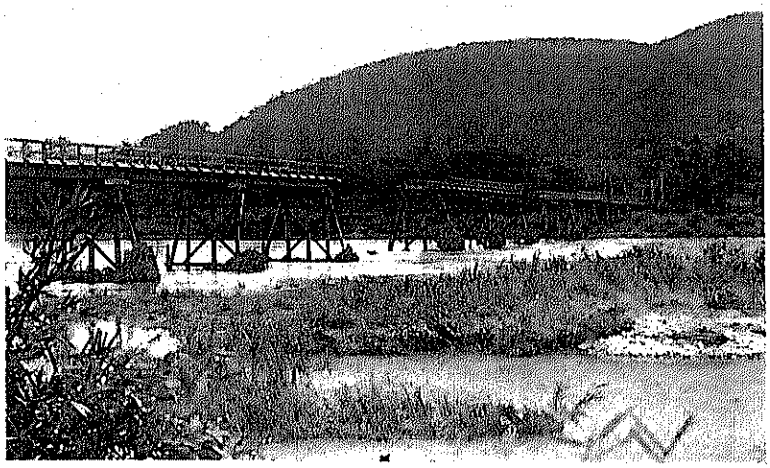
(11) 鴨川勘進橋の損壊



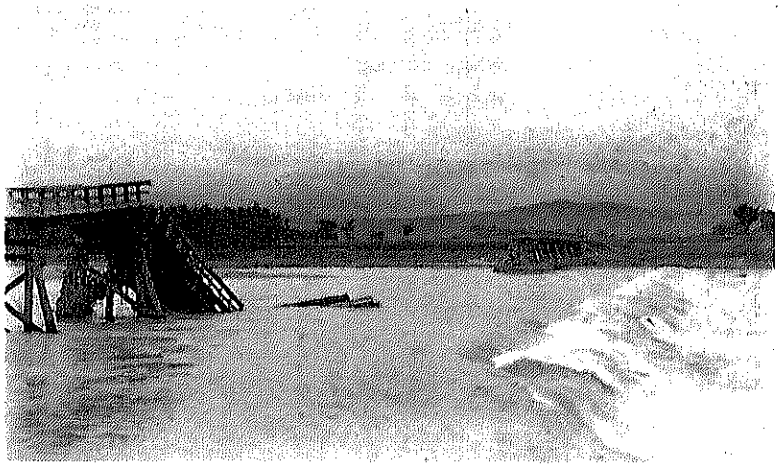
(12) 御室川三條通上流堤防の決潰



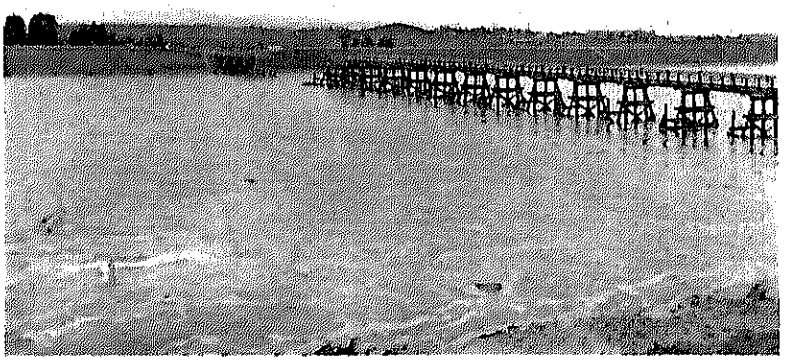
(13) 桂川松尾橋の損壊



(14) 桂川久我橋の流失



(15) 大阪府大和川大井橋の損壊

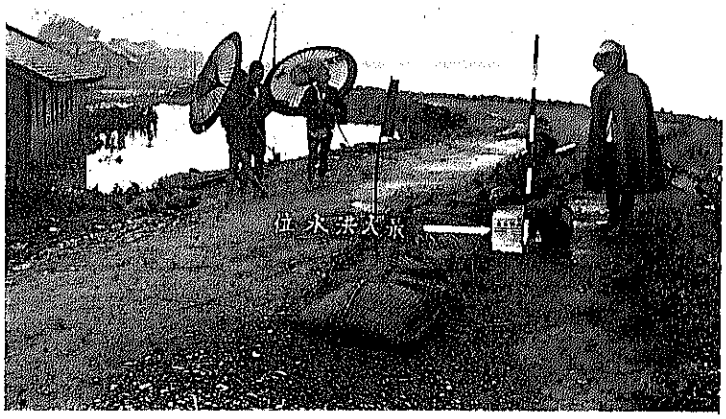


(16) 大阪府芥川右岸堤防崩壊箇所應急工事狀況（高槻町郡家地先）

北九州地方水害狀況

熊本縣に於ける最大降雨量：　6 月 30 日　　257.5 mm（球磨川水系多良木）
〃　　最大出水位：　6 月 30 日午後 7 時 9.35 m（球磨川一勝地觀水標）
福岡縣に於ける最大降雨量：　6 月 27 日　　343.0 mm（朝倉郡秋月町）
〃　　最大出水位：　6 月 30 日午後 11 時 7.15 m（久留米市瀬ノ下觀水標）

（17）筑後川左岸堤溢水箇所（三潴郡青木村江島）

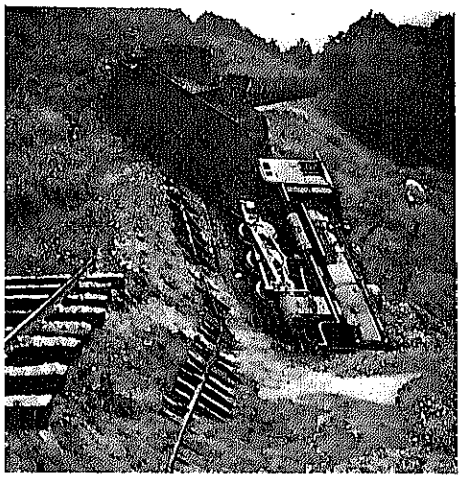


（18）筑後川堤防缺所應急工事（三養基郡南茂安村天建寺）

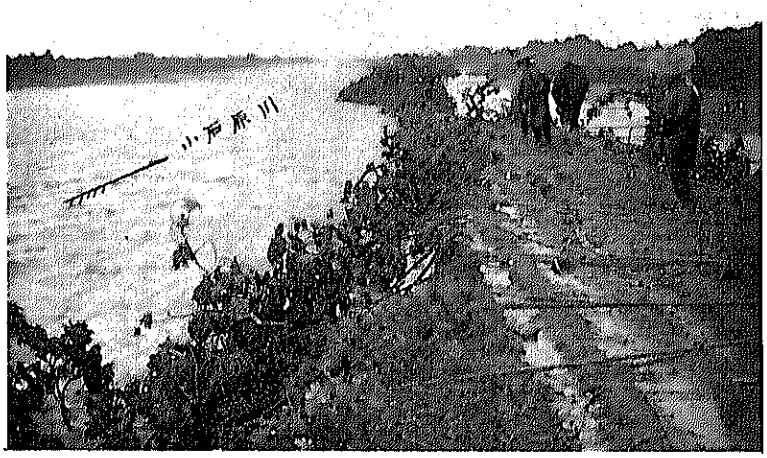
（19）國道二號線浸水狀況（交通杜絶 1 週間）（三養基郡基里村地内）

（20） 久留米市水天宮附近の出水

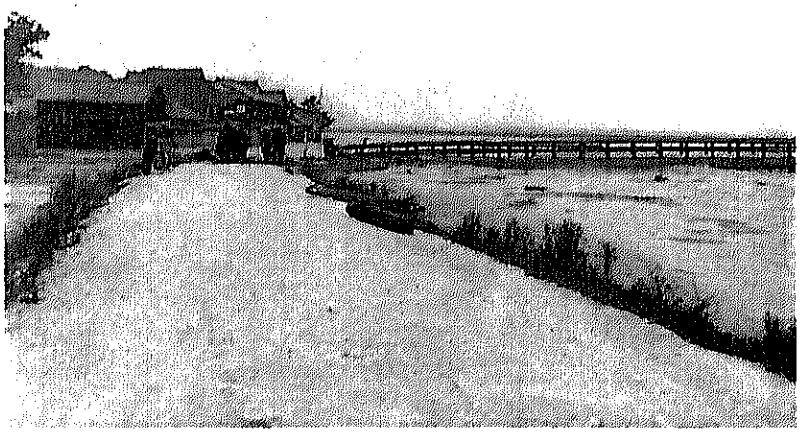
（21） 筑豐本線筑前山家・原田間列車の轉覆



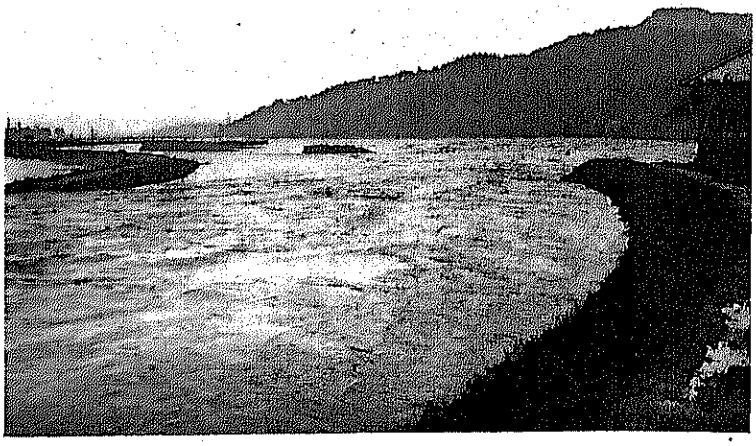
（22） 筑後川支川小石原川堤防の決潰（福岡縣朝倉郡三輪村大塚安川橋の下）



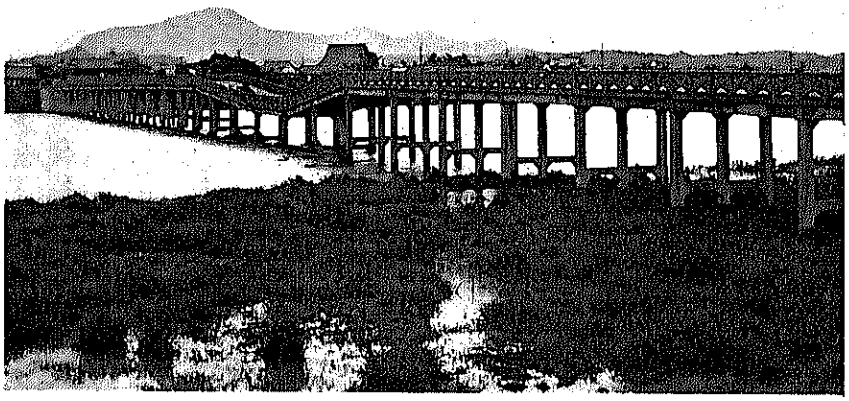
（23） 縣道飯塚・後藤寺線出水狀況（飯塚市三緒，鴉三緒橋附近）



(24) 遠賀川支川山田川下山田小學校下の堤防決潰



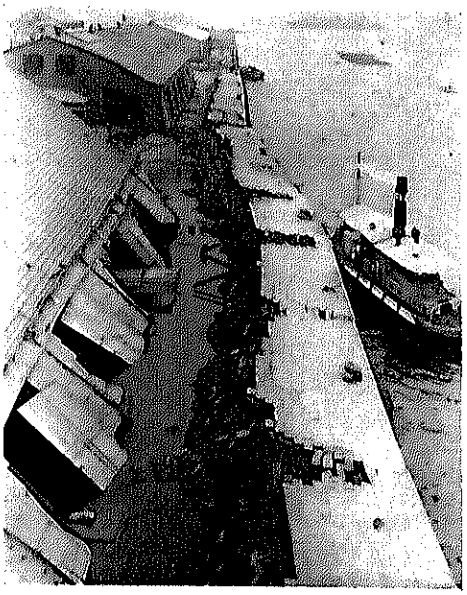
(25) 遠賀川川島橋被害狀況（飯塚市内）



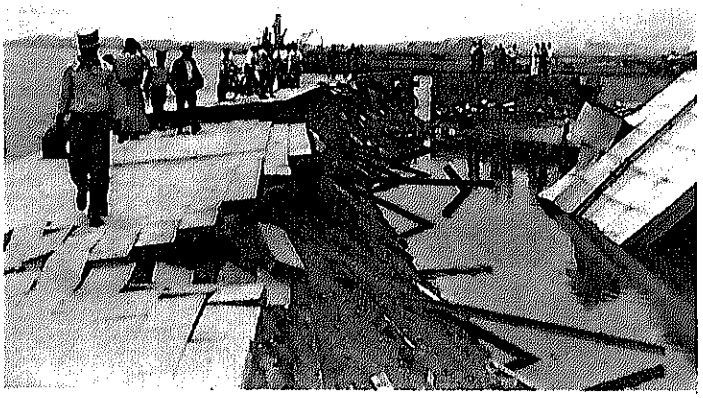
(26) 佐賀縣東松浦郡北波多村地内德須恵川氾濫狀況

静岡地方震害状況

7月11日午後5時25分静岡，清水両市を中心とする強震



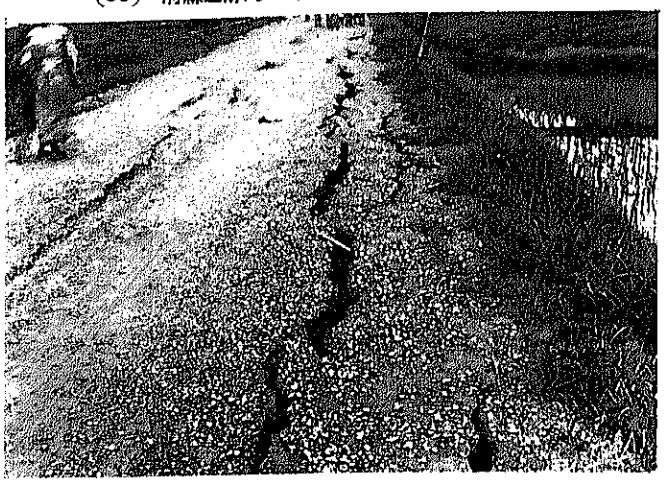
(27) 清水港岸壁（潜函）滑出状況
（水平移動約 6 m）



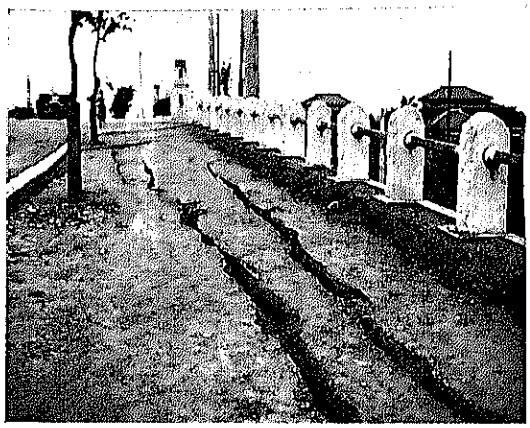
(28) 清水港岸壁滑出状況
（古航標繋付切断し上屋倒壊す）

(29) 清水港上屋内部の陥没

(30) 府縣道靜岡・久能線の龜裂 (靜岡市大谷地内)



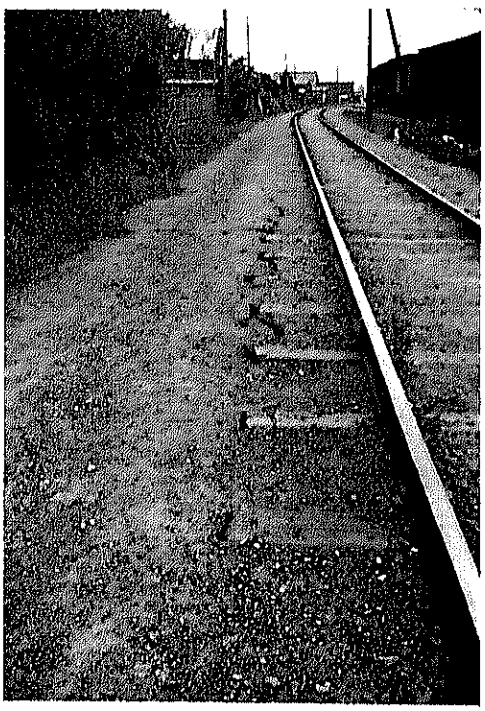
(31) 府縣道靜岡・清水港線跨線橋取付道路の龜裂



(32) 靜岡國道コンクリート鋪裝破壞狀況

(33) 省線清水港支線 700 m 附近震害狀況

(線路動搖に因る枕木端の間隙最大 40 mm)



寄稿に關する注意

1. 用　紙：成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。

2. 頁　數：頁數は本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお斷りすることがあります。

3. 文　體：文體は文章的口語體とす。本文に重要な關係のない前置，挨拶等は省く事。この方針に基き適當に字句の修整，短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。

4. 書　體：横書とし，假名は平假名，數字は算用數字，ローマ字は日本式ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ, d と δ, その他 C と c, K と k, O と o 等頂字と小字とを判然たらしむる事。

5. 算式標準：(1) 本文文字間に挿入する算式は

例へば a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避け，$(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。

(2) 數　字

數字は 3 桁毎に間隔をあける事。名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。例へば

35 錢（三十五錢），13.56 圓（十三圓五十六錢），1～4 時間（一時間乃至四時間），88 326 t（八萬八千三百二十六瓩），1935 年 1 月 1 日（千九百三十五年一月一日），m（米），m^3（立方米），kg（瓩），l（立），83.4 尺（八丈三尺四寸）

6. 用　語：應用力學及コンクリート用語は工學會決定用語を使用され度し（應用力學用語は本誌第 19 卷第 5 號，コンクリート用語は第 20 卷第 6 號會告參照）。

コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。

7. 圖　表：(1) 圖表には圖表題を記すこと。

(2) 複雜なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。

(3) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー，オイル・ペーパー，トレーシング・クロース等とすること。

(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さゞる事。

(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色，赤色の罫は使用せざる事）縱横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。

(6) 圖表の文字，數字は特に大きく書かれ度し（縮寫の標準は 1/2～1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2 mm 程度となる様され度し）。

(7) 圖表類は製版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。

8. 寫　眞：寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。

9. 其　他：(1) 論說報告は邦文に限る。

(2) 論說報告には必ず冒頭に英文表題及び邦文内容梗概並に著者の職名及び勤務所名を添附され度し。

附　記：(1) 論說報告，彙報，參考資料及び工事寫眞にして掲載せる分には謝礼を呈します。

(2) 講演，論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈致します。尚 20 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

會　告

圖書御寄贈の御願ひ

本會は目下本會所有の圖書雜誌を整理し，圖書室を設備する計畫を進めてをりますが，現在所有の圖書は甚だ僅少なる爲，會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる樣御願ひ致します。

雜誌閲覽に就て

本會所有の圖書及び雜誌は本會事務所に備付けてありますから，下記時間內御隨意に御閲覽下さい。

自9月1日至12月31日
自1月1日至7月20日　自午前9時至午後8時，

自7月21日
至8月31日　及土曜日自午前9時至午後4時，

但し　日曜日及び祭日休。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會，見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから，未だ佩用せられない方は至急御申出で下さい。

1. 徽章の寸法　徑 14 mm
2. 品種　銀地金文字浮出し
3. 種類　詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費　金 50 錢（郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す）

（實物大）

會　告

土木學會編纂

明治以前日本土木史豫約募集に就て

昭和年9月，維新以前日本土木史編纂委員會を設け，以來3箇年に渉り，調査研究を爲し編纂中の，明治以前日本土木史全卷も，頃日漸く脱稿，不日上梓の運に至りましたので，印刷部數增刷の都合上，內容見本刷を，會員各位に御送して，豫約申込を受くることに致しました。

本會員で，豫約申込の方に限り印刷實費以下の5圓50錢（送料を含まず）にて，頒布致しますから，未だ御申込にならない方は，この好機會を逸せず，至急申込を希望致します。

豫約募集締切後は，正價15圓を申受けます，又，印刷部數に限りがありますので，締切後は，御希望に應じ兼ねる場合があります。

尙刊行の趣旨及び豫約申込規定並に製本の體裁等を，次に轉載しました。

刊行の趣旨

顧ふに，我邦古來より土木工事の行はれしもの枚擧に遑あらず。然れども其事蹟の編纂せられたるものは維新以後「明治工業史土木篇」あるのみにして，其以前に屬する幾多重要なる工事の變遷と進步の跡は茫然として知るに由なし。王朝時代の池を掘り堤を築く等の，純農土工時代より逐次發達を遂げ，今日年々十數億圓の各種土木工事が，極めて易々と施工せられ，而も其間に我邦獨特の工法の存するものの多きが如きは，其根源を先人苦心經營の賜に，歸せざる可らざるなり。

試に其二三を回顧するも，錦帶橋·猿橋·愛本橋の如き，豐臣秀吉·德川家康·加藤淸正·藤堂高虎·黑田如水·吉備眞備·功上田村麿等の大阪·江戶·名古屋·熊本其他の築城や，都市造營乃至引水工事の如き，或は淀·利根·木曾·信濃·北上諸川の沃野を治むる治水工事の如き，武田信玄·河村瑞軒·野中兼山·伊能忠敬·角倉了以·僧行基及空海の各種土木工事の如き，我國今日の文化の基礎をなせるものゝ事蹟は，今にして之を集錄するに非ずんば，散逸して其推移變遷の跡，遂に窺ふに由なきに到るべし。

而も土木工事の範圍は，治水·運河·砂防·灌漑·排水·開墾·干拓·道路·橋梁·港津·標識·水道·掘井·都市造營·築城·測量·施工法·法制等廣汎多岐に亘るを以て，此等史料の蒐集乃至研究調査と編纂の事業は，幾多の困難と多額の經費とを伴ひ，個人の事業に適せず，我土木學會の如き學術團體にして，始めて成し得る底のものなるべし。

本學會之に鑑み，昭和七年夏，維新以前日本土木史編纂委員會を設け，會員工學博士田邊朔郎君を委員長に同工學博士眞田秀吉君を副委員長に，名井·那波·牧其他各部專門の權威者十數名の外，全國各地に委員を依囑し，傍ら東京帝國大學史料編纂所長辻文學博士の援助を得て，約三箇年の日子を費し，頃日漸く脱稿，不日上梓の運びに至りたり。本書は全篇を十部門に分ち，六百餘の圖版と色刷繪圖十數葉を挿入し，體系を立てゝ編纂せり。是れ實に本學會ありて初めて完成し得たる唯一無二の土木史なりと信ず。

庶幾くは土木關係者は勿論，我邦文化史に志ある一般人士は擧つて，一本を座右に供へられんことを。

昭和10年6月

社團法人　土　木　學　會

豫約申込規定

申込方法： 昭和10年7月31日迄に別紙綴込の申込書に所定の事項を記入の

代　　價： 豫約申込者に限り金10圓とす。

外に送料（東京市内12錢，內地57錢，臺灣・樺太・朝鮮・滿洲88錢

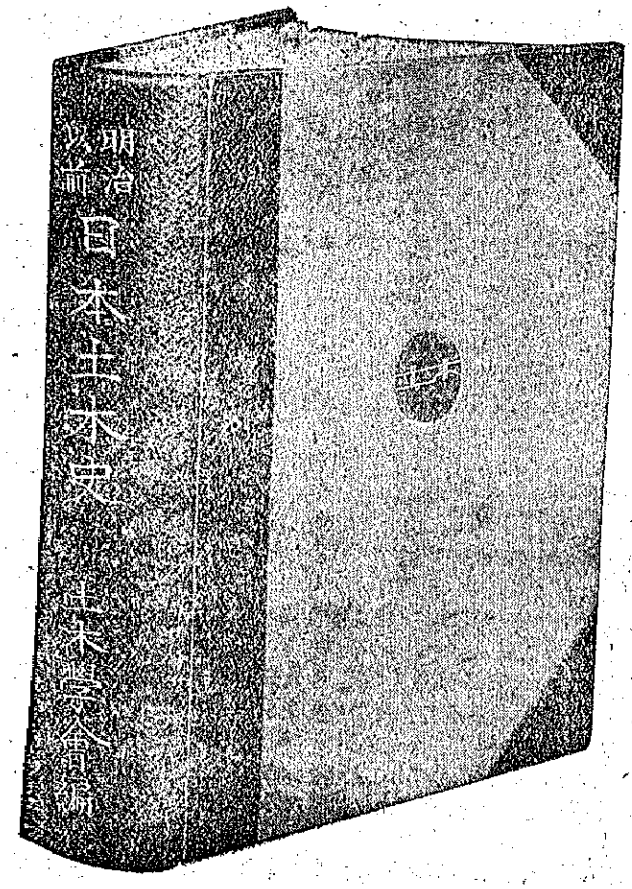
代金拂込： 代金は振替（東京16828番土木學會）又は郵便爲替を以て豫約申込

下さい。

配　　本： 昭和10年12月末日迄に送本致します。

豫約申込所： 社團法人　土木學會（東京市麴町區丸ノ內3ノ6—電話丸ノ內(23

製本の體裁



明治以前　日本土木

正價金1

書留小包料

東京市內

內　　地

臺・樺・朝・滿

四六倍判・天金背丸革

本文5號及6號組

カット圖版

4色刷折込圖

會　　告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は轉居先の御通知がないため，會誌の配布を始め，その他の諸通信が出來ませんのは，誠に遺憾であります，どうぞ知人の方は御手數恐れ入りますが，御本人に御注意下さるか，本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會　　員

荒川參太郎君　稻葉彌吉君　小澤義平君　木村貫一郎君　清岡巳九思君　藤增熊君
田中傳吾君　張惟和君　陳發榛君　鳥居唯四君　福留正鹿君　吉山癸一君
丸林筑郎君　安西榮太郎君　山本弘君　山本保之助君

准　　員

赤岡兵一郎君　伊藤保清君　和泉高嚴君（喬名三郎）　池田乙次郎君　池田角太郎君　石原三郎君
岩田正平君　袁汝誠君　緒方政雄君　大森鶴吉君　柿崎景久君　片岡嶠君
城內清太郎君　菊池三吉君　栗田忠治君　小林義雄君　後藤康友君　佐藤勝衛君
佐藤與吉君　齋藤賢策君　關佳夫君　曾我進君　副島善雄君　田所要吉君
田中武次君　多田安三郎君　高瀨太吉君　高橋良種君　高橋理三郎君　武田惣一郎君
谷在一郎君　谷口清三郎君　徐三善君　坪井基君　內藤鼎二君　中野順太郎君
南條忠二君　難波壽一君　西野清民君　濱崎禎四郎君　樋口正名君　平本源太郎君
藤村禮士君　萬斯選君　宮田肇君　村田勝次君　本橋二郎君　矢野鷹雄君
山尾茂夫君　山田政次郎君　山本貞郎君　横田清治君　吉金亮三君　吉田二億君
劉作權君　陸耕禮君　鷲山寅吉君